

第8回洛西ニュータウンまちづくり検討会を開催しました

「洛西ニュータウンまちづくり検討会」の第8回検討会が、11月6日に西京区役所洛西支所で開催されました。

今回が最終回となった検討会では、「洛西まちづくりビジョン(案)」や、まちづくりビジョンを受けた当面の取組などについて意見交換が行われました。



第8回検討会で出された主な意見

【まちづくりビジョン(案)について】

- ・自治会やコミュニティの活動をしっかりやっていくためには、行政がこれらの活動を下支えし、住民や事業者の諸活動に対して、事業者間の調整をして、全体として効果が高く出る方向で支援すること等が大事である。
- ・地域を支えている人たちが力を合わせて子育てを進めるのが重要であり、子育てのための地域環境づくりというニュアンスの記述にすべき。
- ・若い世代は、意外とのんびり過ごせる、ゆとりのあるまちを望んでいるので、若い世代の転入を考える場合にも「ゆとり」は重要なキーワードになってくる。
- ・ビジョンの中に、もっと地域の小・中学校の役割を打ち出された方が良い。
- ・地域の団体のネットワークづくりが重要になってきているので、RCVの役割は非常に重要。今後の課題として、双方向のコミュニケーションができるツールとして活用していくことを考える必要がある。
- ・RCVとしても、情報を必要とされる子育て世代への支援ができればと思っている。
- ・交通に関しては、ニュータウンの中の改善だけでは大きな変化はないのではないかと。外部からの新たな交通アクセスを求めない限り、若い世代は住んでくれないと考える。
- ・洛西の中に若い世代が定着するための新しい住宅の受け皿があるのか。
- ・UR 都市機構、市営、府営の住宅は、当面建て替える必要はなく、住宅の新規供給はあまり期待できないが、全般的に、日本の都市市街地は、新規供給よりも、公的賃貸住宅や持家も含めて既存の住宅をうまく再生・活用していくことや、また住宅の流通システムの改善が重要になってきている。
- ・団塊世代には、これから地域活動していただく世代として期待しているが、会社人間から地域人間になるには時間がかかる。気楽に参加していただけるような雰囲気づくりが大切。

【まちづくり検討会閉会にあたっての高田座長のコメント】

- ・検討会初期に、幅広く住民の意見を聞いて議論すべきだということで、アンケート、パブリックコメント等々さまざまな形で意見を聴き、その報告に基づいて検討会でビジョンを作成してきた。まちづくりの今後の方向としてステップを踏んで次へ進むことが大事なので、ビジョンを策定してできることをやるのは非常に重要だと考える。
- ・すでに展開されている住民の方々の活動が、将来像の実現に結びついていくような仕組みづくりをやっていくことが必要で、そのためには、住民の方が自らのまちを育てていくことを基本に、それを支える行政の施策が大変重要である。
- ・ビジョンの中で、各主体が、早急に実施すべき事柄については速やかに実施し、引き続き検討が必要なものについては、検討組織を立ち上げて検討を続けていただきたい。

まちづくりビジョン(案)への意見募集結果について

平成18年8月12日から9月2日まで実施しましたまちづくりビジョン(案)に対する御意見や御提案の概要及び検討会の見解については、以下のホームページをご覧ください。

http://www.city.kyoto.jp/tokei/tokeika/rakusai_top.htm

たくさんの貴重な御意見・御提案をいただき、誠にありがとうございました。